

千種 天児屋たら跡に咲くクリンソウを訪ねる

2015. 5. 20.

2015. 6. 1. by Mutsu Nakanishi



奥播磨 たらの山郷 千種 天児屋たら跡に咲くクリンソウ 2015. 5. 20.

梅雨に先駆けて 山麓の湿地にひっそりと群生して、人知れずピンクのお花畠を作るクリンソウ。

地面際から大きな葉を放射状に出し、その中心から真っ直ぐ伸ばした細い花茎に数段、 王冠状の輪形にピンクの小さな花を幾つも咲かせる。お寺の塔の九輪のように見えることから「クリンソウ（九輪草）」と名づけられた。花言葉は「幸福をかさねる」。

派手さはないが、一つ一つが自立しながらも、相互に群集して自分の居場所をしっかりと守り、

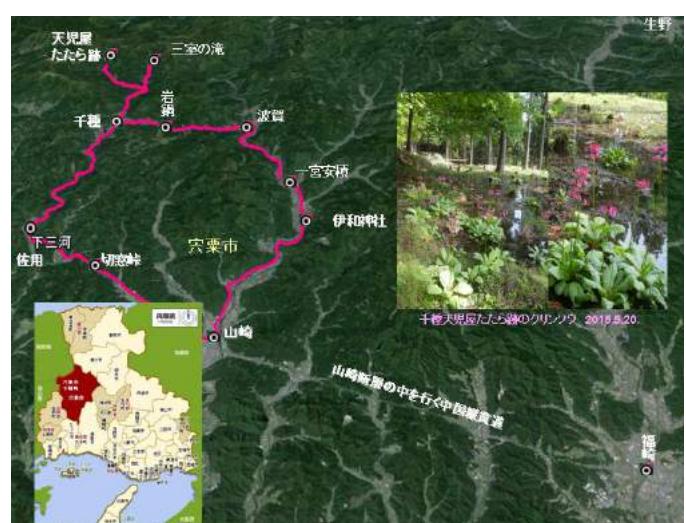
幸福をゆっくりと積み重ねてゆく。梅雨前のひととき、緑の中の湿地に立つ愛らしいピンクの姿に惹かれる日本原産の花ですが、その群生地が年々減り、兵庫県では絶滅が危惧されている。

また、六甲山の高山植物園内の湿地で毎年この時期に花を咲かせ、新聞にその可愛らしい姿を届けてくれる。

2013. 7 月 久しぶりに訪れた奥播磨 千種 天児屋たら跡で、このたら跡を管理するおばさんと話していく

「このたら跡を訪れる人は本当に少ないが、毎年5月末、たら跡一面に自生するピンクのクリンソウが咲き乱れるクリンソウの時期だけは 多くの人でにぎわう。是非 次はクリンソウが咲く5月末にいらっしゃい」と勧められた。もう通い始めて20年を越えるのですが、このたら跡が輝く5月末に一度是非訪れたいと。

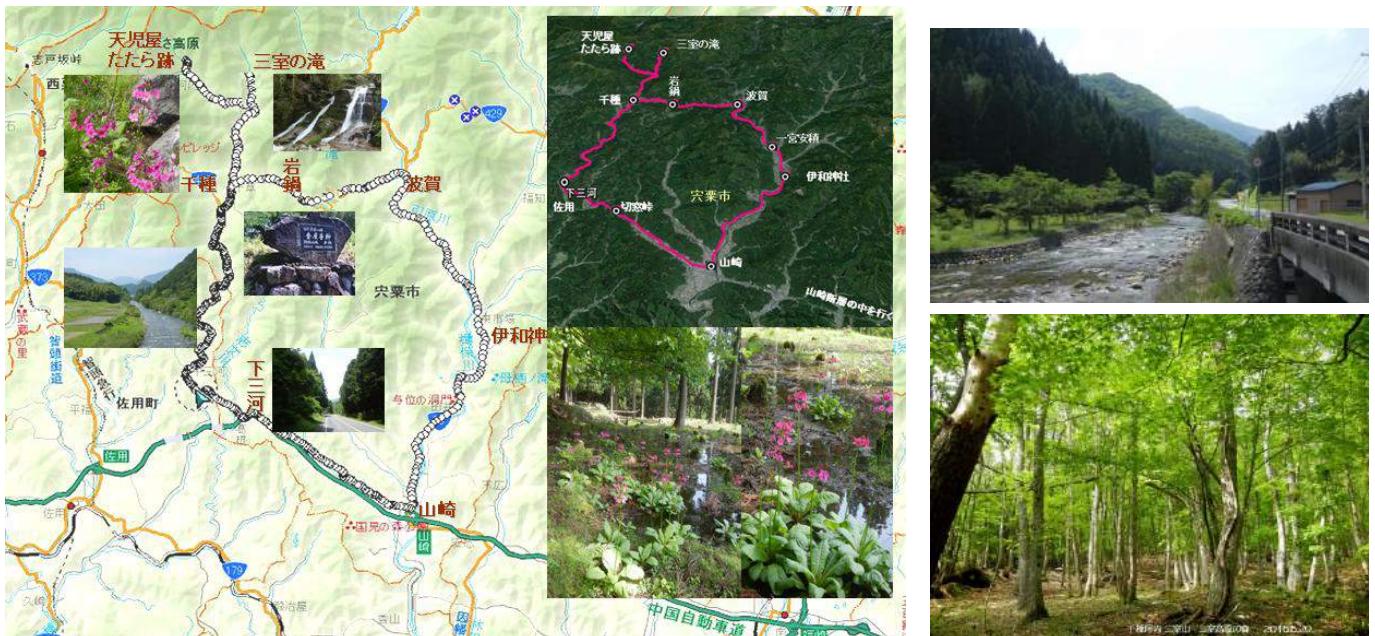
昨年は訪れられなかったのですが、昨年6月訪れた近代製鉄発祥の地 東北金石の山中にある現存最古の橋野高炉跡で、周りの新緑に包まれて咲くピンクのクリンソウがとても印象的で、「たら跡にはクリンソウがにあう今年は千種のたら跡に自生するクリンソウを訪れよう」と。



たらの郷 奥播磨 千種 概要図

「兵庫の群生地のいくつかで、梅雨に先立って初夏を準備するクリンソウが咲き出した」との新聞記事。

昨日 丹波市妙高山の群生地に咲くクリンソウを訪ねましたが、気になっていた千種 天児屋たら跡に咲くクリンソウにも会いたくて、5月21日 今日の朝 原チャリを奥播磨千種に走らせました。



「 谷川が流れおちね川縁に 石垣で整地された段々のたら跡
幾つも真っ直ぐに直立するピンクのクリンソウに カつてそこで働いたたら衆を見る 」

天児屋たら跡の素晴らしいクリンソウ 「新緑に包まれたたら跡には クリンソウが よく似合う」
たらの郷に咲くピンクの可愛らしい花 素晴らしい景色にありがとう

知らなかつたのですが、高校の親しい仲間の故郷が千種三室と知って、
すぐ近くの三室の滝にも立ち寄つて帰りました。
今日は出来ませんでしたが、教えてくれた管理のおばさん
本当にありがとう
この自生地が年々ひろがり、このたら跡が地域発信の場所になってゆけば・・・・と

2015.5.20. 奥播磨 千種 天児屋たら跡のクリンソウを眺めつつ

1. 神戸から 播磨の田園地帯・山崎断層を抜けて 千種へ 梅雨前の田植に忙しい播磨の田園 ・ 最近めつきり少なくなった蓮華畠に出会えました



朝 神戸を原チャリで出発して西北へ。国道 175 号線から小野そして 青野ヶ原の丘陵を越えて 加西から福崎へそこから山崎断層の中 切窓峠を越えてゆく。

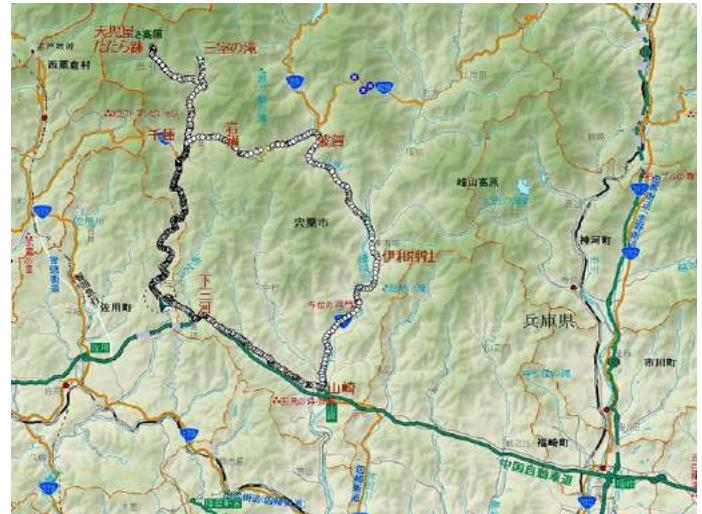
西播磨の佐用・千種へ通ういつもの道である。

播磨の田園風景を楽しみながら新緑の山間へ 神戸から約3時間ちょっとで佐用・千種にたどり着く自然を満喫できる樂しいたら街道を行く。

今回はたたら跡に咲くピンクのクリンソウとの初めての出会いが樂しみ。

帰りはたたら製鉄伝承の岩鍋を通って山崎へ。

ジキタリスが咲き乱れるたたら跡 野々隅原へも立ち寄りたいが、無理だろうか。 千種の三室山山麓へも立ち寄りたい。 この街道はあっちも こっちも 立ち寄ってみたいたらの痕跡ばかりだ。



2015. 5. 20. 朝に

神戸から東播磨の田園が広がる丘陵地を北西に横切ると福崎。 福崎からは山崎断層の中を行く中国道に沿って山間を抜けると神戸から周囲の景色を眺めながら約2時間ほどで、宍粟市の中心山崎の街に入る。

さらに中国道沿いに山間を走って、切窓峠をこえてゆく。土万の志文川を渡り、北へ山間を越えると千種川の河岸段丘が広がる佐用町下三河のT字路。南へ下れば佐用 北へ上れば千種に至る。



切窓峠を西へ下ると千種川が流れ下る佐用町下三河 南へ行けば佐用 北へ上れば千種 2015. 5. 20.

中央を千種川が流れ下る山中に周囲を山にかこまれて、ちょっとした平地が広がり、その両側の山裾に田園と集落がある。ここでは、なぜか まだ 田植えの準備作業が始まっておらず、蓮華畠が広がって美しいピンクの原に・・・・。最近はほとんど見かけられなかった蓮華畠。流れ下る千種川の土手にあがって、蓮華畠と千種川の流れに見とれていました。(昨年の集中豪雨による氾濫の傷跡で 休耕を余儀なくされた田圃かもしれぬ)



蓮華畠が広がる下三河の田園 この中を流れ下る千種川を北に遡って 千種へ 2015. 5. 20.



最近は見られなくなったレンゲ畠を佐用と千種の分岐 三河の郷で見つけました
2015.5.20.

2. 下三河から千種 天兒屋たら跡のある千種高原へ



千種川に沿って 北へ遡る 正面に三室山が見え、まもなく千種 2015.5.20.



千種川の奥に千種の西北県境の山並み 左手 後山 右に笛吹石山 千種の町の手前 七野周辺より 2015.5.20.



千種を越えると千種川沿いの山合い ほどなく 千種高原へ左に折れる川井の分岐 2015.5.20.

この川井の分岐は真っ直ぐ北から三室川が流れ下る河内の谷筋と左手 西の岡山との県境から西河内の谷筋を流れ下ってくる千種川本流との合流点。かつて この分岐の河原で砂鉄を採取したことがありました、今は護岸が整備され、河川敷はきれいな公園に。西へ折れて、西河内の谷へ、すぐ山側の段丘の上が 以前資料を貰ったことがある高保木たら跡との標識。丘に登りましたが、今は何もなく廃校になった小学校の門標の下に鉄滓の塊が置かれていました。



千種で出土した一番古い約 800 年前のたら跡 高保木たら跡 千種西河内で 2015. 5. 20.

高保木たらからさらに西へ千種川に沿って遡って、西河内の小さな集落をいくつか過ぎ、傾斜がだんだんきつくなつて、左へ蛇行する橋を渡つたその向こうに Y字路の「千種高原」の道路標識。

ここを右に曲がり、千種川へそぐ天児屋川沿いを少し登れば天児屋たら公園である。



西河内の千種川と天児屋川の合流点 右へ天児屋川沿いの谷筋を少し遡れば天児屋たら公園 2015. 5. 20.

集落から杉木立の谷筋を奥に少し登ると左手に石垣・右手に学習館の建物が見え、天児屋たら前に出る。 石垣の手前にピンクのクリンソウがみえる。

天児屋川は道路からよく見えないが、左手の学習館の裏側を下に流れ下っている。

何度も来たことがあり、道はよく知っているが、クリンソウに会えるのは初めて。

残念ながら、水曜日で千種のたら関係の展示をしている学習館は休みで、以前お会いした管理のおばさんには会えなかった。



3. 天児屋たら跡に自生するクリンソウ群落

山の傾斜地に石垣で囲われて区切られたたら跡のあちこちでピンクのクリンソウが咲いていました



【 天児屋たたら跡の概要 天児屋たたら跡の案内板より 】

天児屋鉄山諸施設配置図

1 高殿	9 味噌小屋	17 山内屋敷
2 金治	10 牛つなぎ場	18 山ノ神所
3 大鍋場	11 牛小屋	19 諸屋
4 砂鉄窯小屋	12 道具小屋	20 施設場
5 勘定場	13 施治小屋	21 カナクソ接場
6 米蔵	14 金屋子伴岡・砂鉄場	22 露店
7 小鍋場	15 山配運搬	23 施店
8 碳庫	16 村下屋敷	

【指定年月日】 平成十四年四月九日

所在地 宍粟市千種町西河内字新口

兵庫県指定史跡 天児屋鉄山跡

【概要】 城跡を思わせる整然と積まれた石垣が残る天児屋鉄山は、高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など複数の建物群で構成されていた大規模な製鉄施設の跡である。

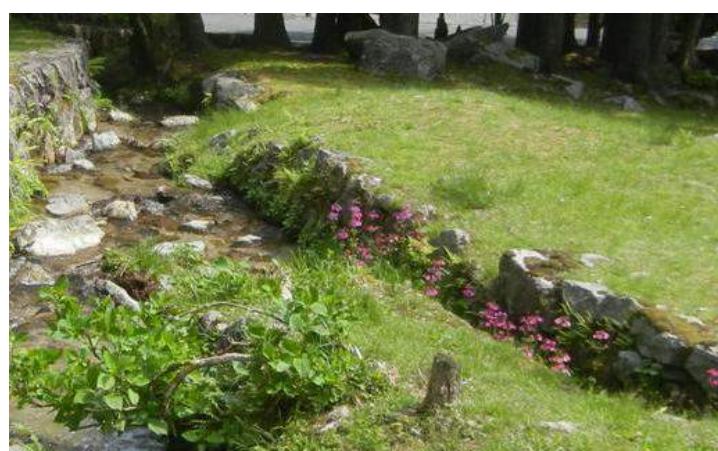
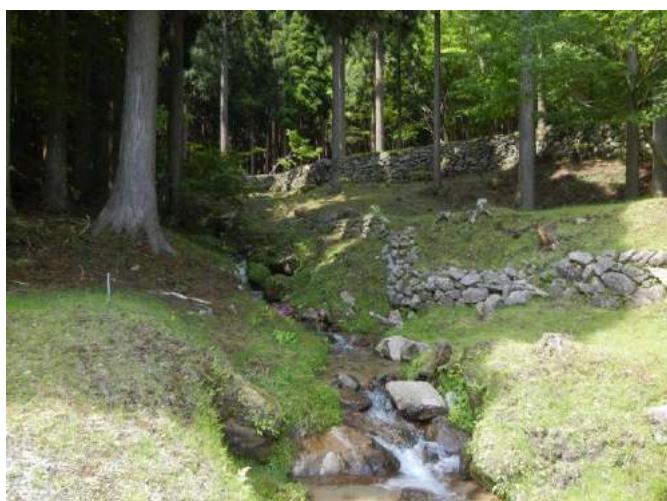
天児屋鉄山の主な操業期間は、江戸時代前期から明治十八年（一八八五）までの一百五十年余りと推定されるが、発掘調査の結果から、製鉄遺跡としての歴史はさらに中世まで遡るとも考えられている。

千種で産出される鉄は、その品質の高さから「千草鉄」の名で珍重され、特に中世、備前長船（現・岡山県瀬戸内市）の刀匠達は、それを原料に多くの名刀を作り出した。

江戸時代に入ると、千種は徳川幕府の直轄地（天領）となり、天児屋鉄山は幕府から認可を受けた千草屋や鳩屋などの豪商「鐵山師」によって請負運営された。この頃には、刀以外にも生活用具の製造に必要な鉄の需要が増加し、山崎まで就航していた揖保川の高瀬船などを使って下流の姫路、さらには大阪方面へと出荷されるようになった。

参考文献 鳥羽弘毅
『たたらと村』ほか



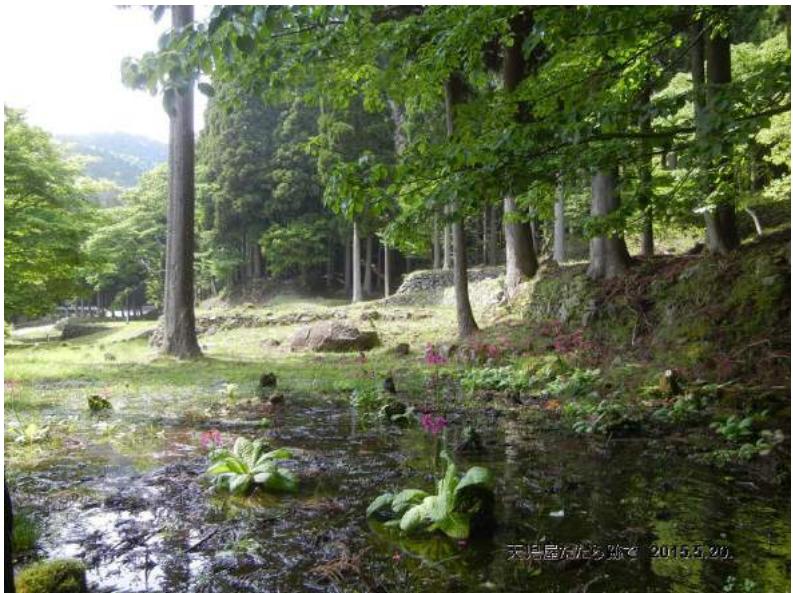




天児屋たら跡で 2015.5.20.



天児屋たら跡で 2015.5.20.



天忍屋たたら跡で 2015.5.20.





初夏の風を吹き込む可愛らしい花

花言葉は「幸福をかさねる」

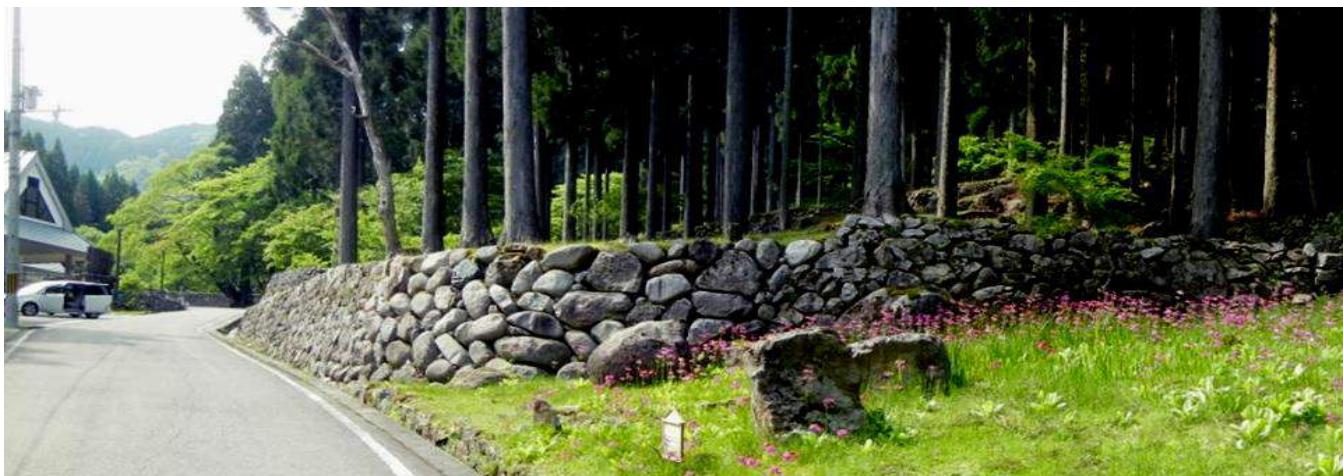
たら跡にクリンソウ

梅雨前のひととき、緑の中の湿地に、真っ
直ぐに立つ明るいピンクの姿に惹かれる
派手さはないが、一株一株自立しながら
も、群集して、自分の居場所をしつかり守り、
輪になって 一段一段 幸福を積み重ね
ていく。



たらの自然と溶け込みあって咲くクリンソウ

初夏の風をたら跡に吹き込む可愛らしい花だと



4. 三室山山麓 河内の谷筋へ



千種へのT字路から逆に北へ、河内・三室山への道に立ち寄る 2015.5.20.

クリンソウが咲く天児屋たら跡を後にして、

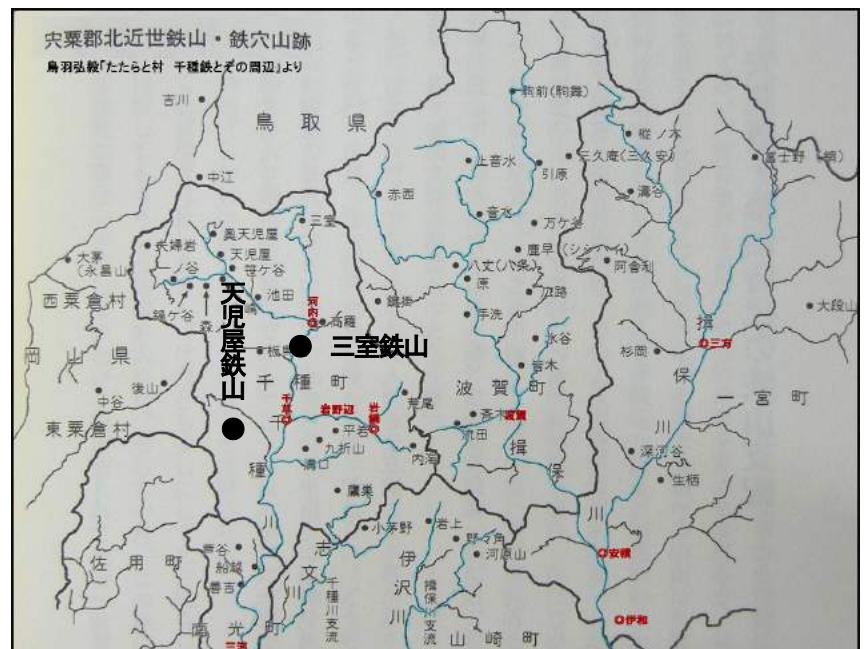
今回もう一つ是非 今回足を踏み入れたい場所がある。

帰りは この三室山から流れ下る三室川沿いの河内の谷筋に立ち寄りたい。

最近インターネットをチェックしていくと、「上流に三室山鉄山があった河内川の大きな滝 [煙鍋ノ滝 別名 三室の滝] の下で金糞（鉄滓）を採取した」との記事を目にした。この三室川が流れ下る河内の谷筋へは「そのうちに」と思いつつ、足を踏み入れたことがない。入ったことがない。

この三室川沿いの谷筋河内もたらの郷で、江戸時代 河内の谷筋へ入るところに高羅鉄山 一番奥に三室鉄山があったというが、詳細はよく知らずそのままになっていたところである。西河内の谷筋 千種川沿いを下り、千種川と三室川との合流点川井から、北に折れて、三室川が流れ下ってくる河内の谷筋に入る。この谷筋も田園地帯が広がる明るい三室川の谷筋で、奥の三室山へと続く道筋には田園が広がり、点々と集落がある。

川井から10数分遡って、集落から三室山にかかるところに、三室高原・三室の滝の大きな案内板がありました。



川井から奥へ 三室川の川筋に広がる河



三室川沿いに集落が点々と並ぶ河内を三室山に向かって遡る

google earth より

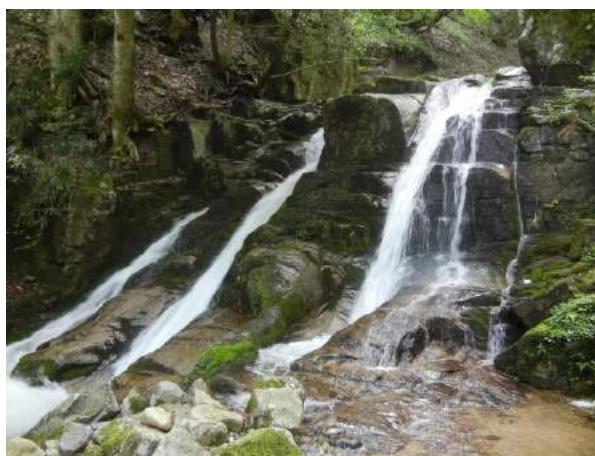


川井から 10 数分で三室山の入口 三室高原の案内板があり、左手 三室川の崖ぶちに三室の滝の案内板がありました
google earth より

道路の左手 三室川の崖下に三室の滝 そして道路を挟んで右側には素晴らしい新緑の三室山の森が広がっていました。
時刻は午後2時50分。 今日はここまでと決め、三室川に下りて、三室の滝 そして新緑の森にも入ってきました。



三室高原 三室の滝 入口で 2015. 5. 20.



三室高原 三室の滝 2015. 5. 20.



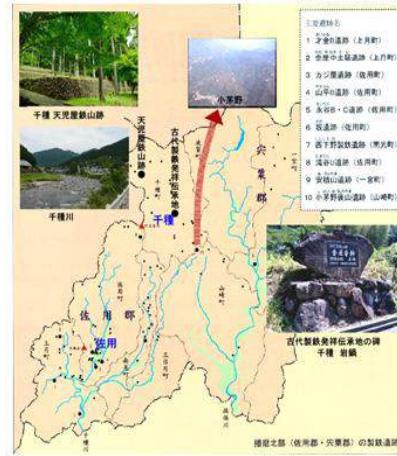
三室高原 三室の滝 2015.5.20.



素晴らしい新緑の森 三室高原で 2015.5.20.

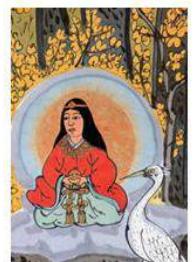


5. 古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承地 千種 岩鍋



製鉄神 金屋子神と千種 古代製鉄発祥の地伝承

播磨国宍相(粟)郡の山間に村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。



村人にタララによって鉄を作ることを教え、様々な道具を作る技術を人々に授けた。そして、「これから西の方へ行き、鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と、白鶴に乗って天空高く飛び立った。その後、金屋子神は出雲国に飛来し、能義郡比田の森に降り立ったと言う。

河内から千種へ戻り、今度は千種川沿いを南に下らず、千種の町から東へ 国道492号線で、途中 岩野辺・岩鍋を通って 鳥ヶ峰を新しい鳥ヶ峠トンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町へ出て宍粟市山崎へ揖保川沿いを下る。

かつては交通の難所であり、また、この山中にも数々のたたら跡があり、特に途中 岩鍋は古代の製鉄神金屋子神の降臨伝承地とされ、街道沿いにその碑がある。





この地が金屋子神降臨伝承地といつても、すぐにたたら製鉄と結びつくものはないが、この道の両側に広がる山中には数多くのたたら跡が点在している。

碑のすぐ横には、以前見かけなかった岩野辺自治会が整備した荒尾鉄山跡の案内看板がたっていましたので、案内板に従って集落の中に入りましたが、集落のはずれに猪対策の扉があり、さらに奥荒尾山の方向に落ち葉に覆われた道が続いていました。今日はここまでと……。以前から気になって調べていた住友泉屋と千種のたたらとの関係で、この荒尾山鉄山は泉屋（分家）とも関係のある鉄山と資料にあった鉄山。

もう夕方近く 次回まわして ゆっくりいたずねようと……。

集落の人聞くと 扉からほんの少し登って脇道に入れば、江戸中期から明治前期の荒尾山鉄山跡で、山中にその遺構が残っていると聞きました。

また、この岩鍋の碑から直ぐ東が鳥ヶ峠トンネル。かつては難所だったところで、長いトンネルを抜け、まっすぐ下れば、揖保川水系の引原川が流れ下る波賀町、鳥取と山崎を結ぶ国道29号線に出る。

千種から東へ 岩野辺から山越えで揖保川水系の波賀町斎木へ

国道429 鳥ヶ峠(とりがたわ)道路と鳥ヶ峠トンネル 開通

千種から岩野辺を通じ内海を経て鳥ヶ峠を越えて西谷村(現・宍粟市)に至る「岩野邊道」が当道路の由来とされる。昔の本道路は峠を境に岩野辺側は比較的緩やかで、斎木側は急傾斜となっていた。急峻な谷間から車通しするルートのため、大型車のすれ違い困難で、さらに冬季の積雪による通行止めか雪崩発生など、交通の障害となっていました。これらを解消するため、トンネルを含む道路の改築事業に着手し、鳥ヶ峠トンネル開通とともに、2009年11月11日によりがたわ道路全體が供用開始された。



長いトンネルを抜けると波賀町斎木の集落に出て、そのまま長い坂を下ると正面の山際の引原川の橋。引原川沿いを下ってきた鳥取と宍粟市山崎とを結ぶ国道29号線に出て、あとは真っ直ぐ川沿いを南へ下れば30分ほどで宍粟市の山崎である。

久しぶりの長い原チャリツーリングでしたが、

新緑のたたらの山郷をかけぬけた心地よい一日でした。

この地に通いだして約20年ですが、たたら跡に咲くピンクのクリンソウを見るのは初めてイメージを膨らませながら訪ねた千種天児屋たたら跡に自生するクリンソウも本当に心地よい風景たたら跡によく似あうと。また、気になっていた三室山の河内の谷筋 そして久しぶりに古代製鉄神降臨の地 岩鍋にも行けました。

2015.5.20. 夕 原チャリを走らせながら by Mutsu Nakanishi



長いトンネルを抜けると波賀町斎木の集落
千種川水系から揖保川水系にあっけなく出る
何度も来ても 新鮮な千種での一日でした。

【関連 Iron Road ご参考まで】

1. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19.

千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる。

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308chigusa00.htm>

2. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる

奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花のWalk

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf>

【参考資料】 鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺で」

【和鉄の道・Iron Road】西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪

【和鉄の道・Iron Road】西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪

1. 古代鉄の大王国 播磨国 「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地 2001.1. +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/1st1bb01.pdf> +

2. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11. +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf> +

3. 「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡探訪 一宮町 2004.2. +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf> +

4. 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町 2004.6. +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf> +

5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 砥峰高原 一面スキが復いつくす 砥峰高原 2007.10. +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf> +

6. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21. +

奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花のWalk +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf> +

7. 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流 たたらの郷 宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる 2010.7.20. +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf> +

8. 「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 +

西播磨で古墳時代後期末の獣冶炉跡が出土 有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf> +

9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる 2012.8. +

佐用 西播磨佐用町（旧南光町）林崎 +

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf> +